

「長沼」映像事例解説

◎ グリーンツーリズム（ファーム・ステイ）

【背景】

農業経済面での業績悪化

「経済的リスク」

【目的】

現金収入の確保

「経済的リスクの軽減」

農業への理解度の向上

「農業についての啓蒙」

空港と大都市に近いという立地を生かす

「地理的条件の活用」

【内容】

駒谷氏が集客交流事業を提案し、町職員と農協職員による研究会を発足させ、
2005年からグリーンツーリズムを開始する。

「コミットメント」→「価値の共有」→「**集団**形成」

農家の空き部屋を活用して修学旅行生をホームステイで受け入れ、農業体験をさせる。

「コミュニケーション」「体験学習」

長沼地域は稲作からの転作率が66%なので、生徒はあらゆる農作物に触れることができる。

特区を申請し、宿泊事業の特例となる（広さの条件の緩和、共同調理という条件）。

2008年現在で、862戸の農家の内159戸が事業に参加している。

「地域主義」「小実業性」「非匿名性」「非営利至上主義」

【成果】

食と農業への理解度の向上

【課題】